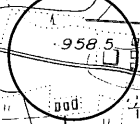


# 雁頭沢遺跡 (第11次)

平成15年度工場および駐車場建設に先立つ緊急発掘調査報告書



2004.3

長野県原村教育委員会

表紙地図 ○印が雁頭沢遺跡 10,000分の1

## 序

このたび平成15年度に実施した雁頭沢遺跡第11次発掘調査報告書を刊行することになりました。

発掘調査は、工場および駐車場建設に先立って株式会社峰鋼から委託をうけて実施したものであります。平成5年度に実施した調査地に隣接していたこともあり、少なからず期待もありましたが、縄文時代中期の土器破片と石器を僅かに発見しただけであります。

遺跡は現状のまま保存することが最も望ましいことあります。村内には100を越える遺跡が知られていましたが、諸開発により年々少なくなっております。その流れの中でいかなる形で保護していくのが妥当な方法か検討しております。しかし、開発の波は早く発掘調査に携わるたびに、失われる貴重な文化遺産を大切にするとともに、後世に伝えて行く責任を強く感じるものであります。

発掘調査にあたり県教育委員会のご指導、株式会社峰鋼はじめとする多くの皆様のご協力に深甚なる謝意を表する次第であります。

発掘現場では作業員の皆様のご苦勞により、失われていく貴重な資料を記録に残すことができました。また、発掘調査報告書刊行に至る過程で、お世話をいただいた皆様にたいして厚くお礼申し上げます。

平成16年 3月

原村教育委員会

委員長 津金 喜勝

# 例 言

- 1 本報告は、平成15年度工場および駐車場建設に先立って実施した長野県諏訪郡原村室内に所在する雁頭沢遺跡第11次緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、株式会社峰鋼から委託を受けた原村教育委員会が、平成15年11月4日から12月10日にかけて実施し、整理作業は12月15日から16年3月31日まで行った。
- 3 現場における記録・写真撮影は平出一治が行い。基準杭の設置は入原測量有限会社に委託した。
- 4 図面・写真・遺物等の整理は平出・坂本ちづるが行い、石器の実測は株式会社東京航業研究所に委託し、執筆は平出が行った
- 5 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。  
なお、本調査関係資料には、53の原村遺跡番号を表記した。  
発掘調査から報告書作成にわたって、ご指導・ご助言をいただいた多くの方々に厚く御礼申し上げる次第である。

# 目 次

序	
例 言	目 次
I 発掘調査の経過	3
1 発掘調査に至る経過	3
2 調査組織	3
3 発掘調査の経過	6
II 調査の方法	7
1 位置と環境	7
2 調査方法と層序	9
III 遺 物	11
IV ま と め	11
報告書抄録	

# I 発掘調査の経過

## 1 発掘調査に至る経過

開発関係者から遺跡の照会があり工場と駐車場の建設計画を知るが、たまたま予定地に雁頭沢遺跡（原村遺跡番号53）が所在した。

本来なら遺跡は現状のまま保存することが最も望ましいことであるが、予定地付近は昭和63年度、平成5年度に発掘調査を行い記録保存したうえで宅地化されているし、平成5年度に工場建設に先立つ第7次緊急発掘調査を実施した経過がある。計画の工場建設は、平成5年建設工場への増築であり「記録保存やむなき」との結論に至り、平成15年度に緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。

原村教育委員会は、その後も協議と調査日程等の打ち合わせを行い、株式会社峰鋼から委託をうけ11月4日から12月10日にわたり緊急発掘調査を実施した。

## 2 調査組織

事務局 原村教育委員会

教 育 長 津金 喜勝

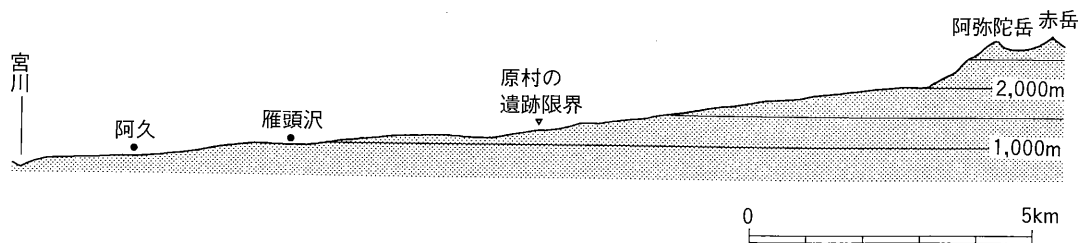
学校教育課長 佐貫 正憲

文化財係長 平出 一治

文化財係 平林とし美

調査団 団 長 津金 喜勝（原村教育委員会教育長）

調査担当者 平出 一治

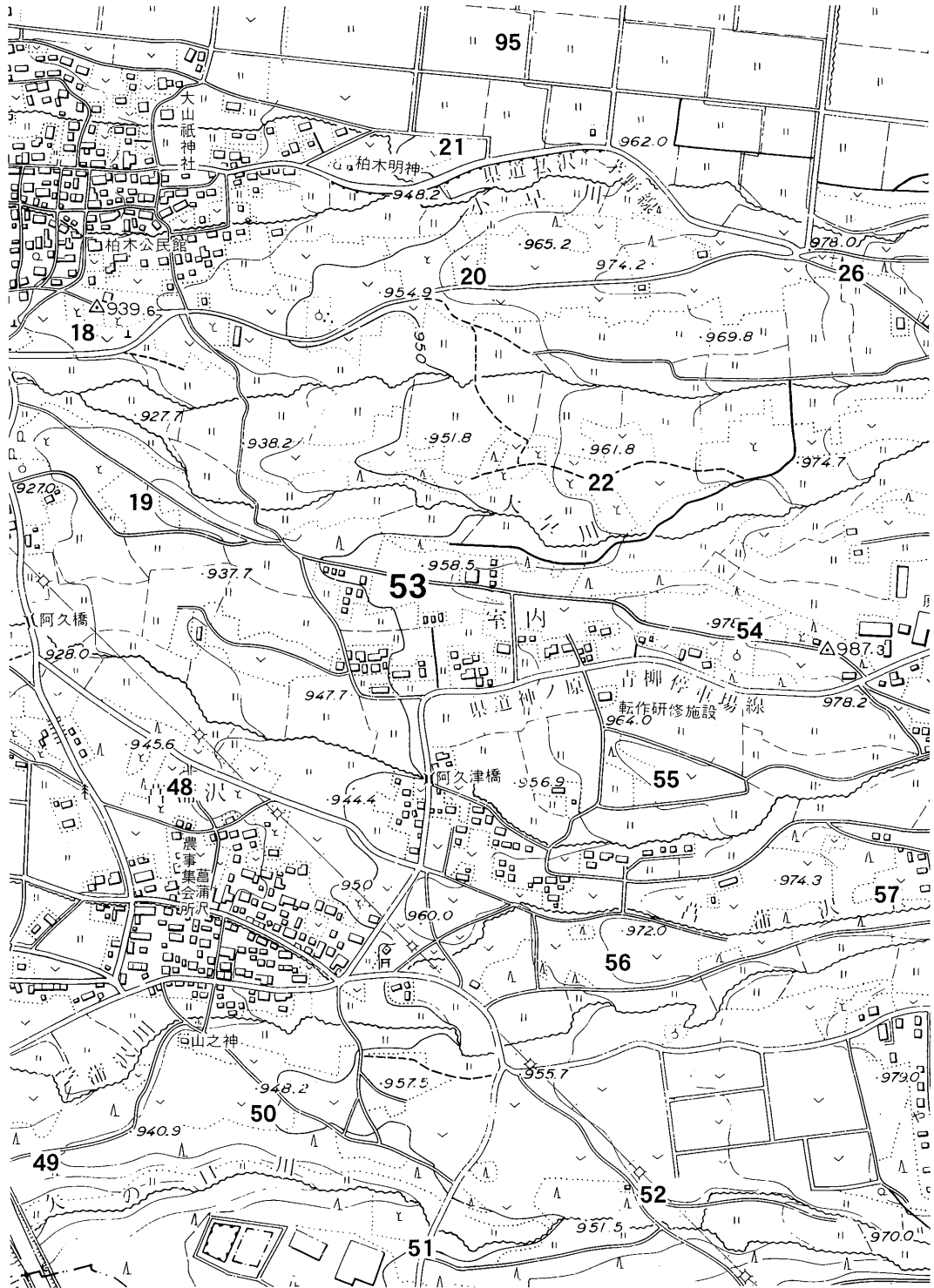


第1図 原村域の地形断面模式図（宮川—雁頭沢—赤岳ライン）

表1 雁頭遺跡の位置と周辺遺跡一覧

○は遺物発見 ◎は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文					弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中	後							
18	前尾根西					○								
19	南平			○		◎						○		平成9年度発掘調査 消滅
20	前尾根				○	◎	◎			◎	○	○		昭和44・52・53・59・平成9・15年度発掘調査
21	上居沢尾根					◎	○					○	○	平成4年度発掘調査
22	清水			○	○	◎	○			◎	○			平成8年度発掘調査 消滅
26	家下					○				○			○	昭和59・平成9・※年度発掘調査
48	楡の木					◎				○				
49	大石	○		○	◎	◎				◎			○	昭和50・平成9・10・※年度発掘調査
50	山の神					◎	◎			○				昭和54・平成※年度発掘調査
51	姥ヶ原					○	◎							昭和63・平成元・15年度発掘調査
52	水掛平					○	○			○	○			平成7・8年度発掘調査
53	雁頭沢					◎				○			○	昭和54・57・63・平成4・5・9・10・13・15年度発掘調査
54	宮ノ下			○		○				○	○	○		昭和57・58年度発掘調査
55	中尾根				○	◎	○			◎			○	平成6年度発掘調査
56	家前尾根				◎	◎				◎			○	平成6年度発掘調査
57	久保地尾根					◎								昭和5・平成6・7・8・※年度発掘調査
95	土井平									◎				平成4年度発掘調査 消滅



第2図 雁頭遺跡の位置と周辺遺跡 (1:10,000)

調査参加者 発掘作業 小島 正雄 清水 正進 田中 初一  
西沢 寛人  
整理作業 坂本ちづる

### 3 発掘調査の経過

平成15年10月30日 発掘準備をはじめめる。

11月4日 駐車場予定地にトレンチ設定を行う。

13日 重機でトレンチの掘削、引き続き人力でトレンチ内の精査を行う。

12月10日 工場建設予定地にトレンチ設定を行い、引き続き重機でトレンチの掘削、人力でトレンチ内の精査を行うが、遺構を発見するまでには至らず、片付けを行い調査は終了。



写真1 工場建設予定地



## II 調査の方法

### 1 位置と環境

雁頭沢遺跡（原村遺跡番号53）は、長野県諏訪郡原村室内の北に隣接しているが、原村役場の西方約1kmという地理的条件に恵まれていることもあり、近年は住宅化が進んでいる。

この辺りには、当地方特有の東西に細長く伸びる大小様々の尾根がみられ、それらの尾根上から南斜面に表1と第2図に示したように、縄文時代中期を中心とした遺跡が密集する地帯である。その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する阿久川と大早川によって南と北を浸蝕された東西に細長い尾根上から南斜面に立地している。尾根上の平坦面は80mほどで、南の阿久川側はなだらかであるが、北の大早川側は急激な斜面となる。地目は地下水が低いこともあり普通畑と墓地で、近年は前述のように宅地化が進んでいる。調査地点は普通畑と工場用地（駐車場）で、標高は965m前後を測る。



写真2 調査風景（駐車場予定地）

この尾根筋の西方約1.7kmには国史跡の阿久遺跡があり、その先でフォッサマグナの西縁である糸魚川－静岡構造線の断層崖に沿って北へ流れる宮川によって断ち切られている。

遺跡は早くから知られていたが、昭和40年頃に小林重人氏が水田造成の折り、縄文時代中期中葉の藤内I式の一括資料を発見している。その一部は原村教育委員会で保管しているが良好な資料である。

開発に先立つ緊急発掘調査はすでに10次におよび、第1次（昭和54年度）は村道改良事業に先立つ調査で、縄文時代中期中葉の住居址1軒と小竪穴4基を、第2次（昭和57年度）も村道改良事業に先立つ調査で、近世の汐址1と時代不詳の配石1基を発見している。

前述したように地理的条件に恵まれているうえに、道路整備が進んだこともあり、第3次（昭和63年度）は住宅団地造成に先立つ調査で、宅地化が進むきっかけとなるが、縄文時代中期中葉の住居址6軒（内3軒は完掘、埋没保存2軒は部分調査・1軒は確認）、小竪穴82基、時代不詳の汐址2を発見し、縄文時代中期の典型的な環状集落址であることがわかってきた。第4次（平成4年度）と第6次（平成5年度）は個人住宅の建設、第6次（平成5年度）は宅地造成、第7次（平成5年度）は工場建設、第8次（平成9年度）は県営圃場整備事業原村西部地区、第9次（平成10年度）は村道改良事業、第10次（平成13年度）は建売住宅建設に先立つ調査で、第4次発掘調査以降は土器や石器は出土しているが、



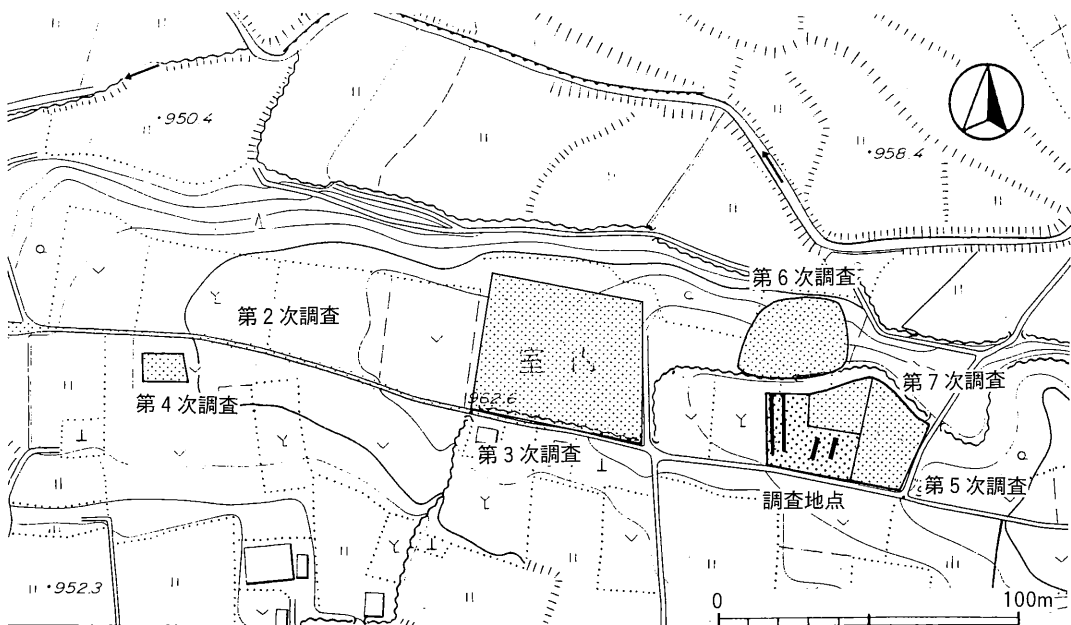
写真3 調査トレンチ（駐車場予定地）

遺跡の中心部から外れていたようで住居址の発見はないが、第7次と第8次調査でそれぞれ小竪穴2基の計4基を発見し、遺跡外縁部の状況が理解できるようになってきている。

以上のように、縄文時代中期の集落遺跡であることが判明したが、付近の遺跡に目を向けると、第2図に示した範囲内でも南平遺跡（原村遺跡番号19）、前尾根遺跡（同20）、上居沢尾根遺跡（同21）、清水遺跡（同22）、大石遺跡（同49）、中尾根遺跡（同55）、久保地尾根遺跡（同57）が中期の集落址であり、中でも大早川対岸の前尾根遺跡は当地方屈指の大集落址であるし、第2図から外れているが前期の大集落址である国史跡・阿久遺跡はあまりにも著名である。このように集落址の多いことは、八ヶ岳西南麓の一角が生活に適していた地であったことは確かで、中期縄文文化は花開き縄文の故郷といわれる所以であるが、八ヶ岳西南麓の中でも特に集落址が密集する地域で後世に残したい遺跡ばかりである。しかし、残念なことに県営圃場整備事業や県営担い手育成基盤整備事業をはじめとする開発事業ですでに消滅した遺跡は多く、本遺跡は、中期縄文文化解明に欠かすことができない極めて貴重な遺跡で、保存したい遺跡である。

## 2 調査と層序

発掘調査の対象は、第3図に示した工場建設予定地と駐車場用地である。工場建設は、平成5年度に実施した第7次緊急発掘調査後に建設された工場への増築である。



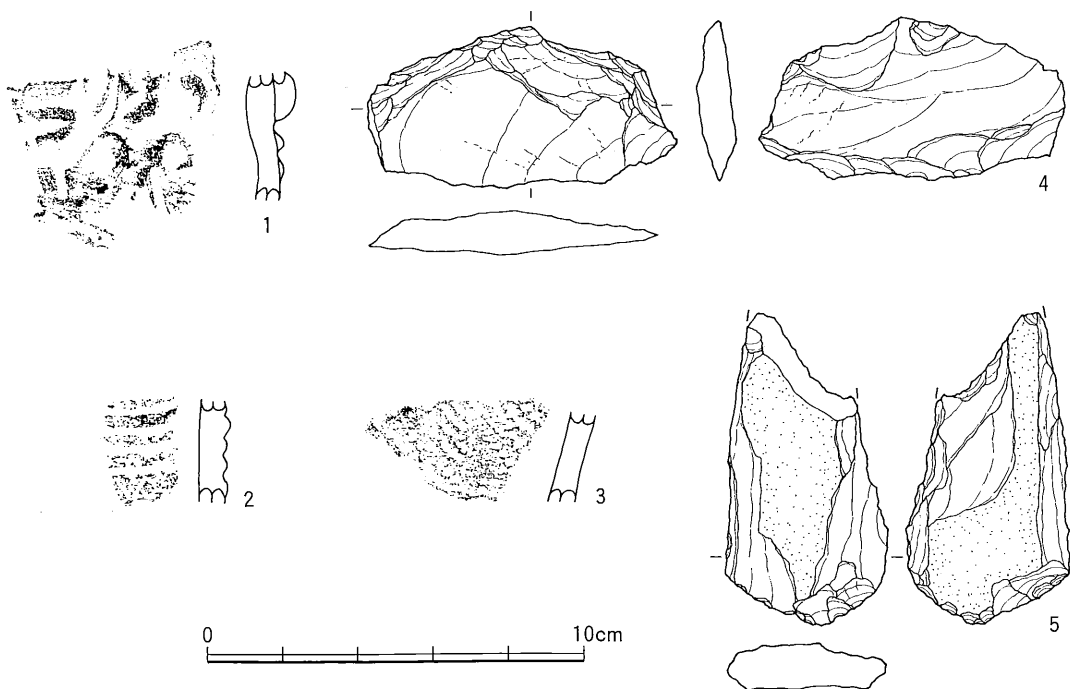
第3図 発掘区域図・地形図（1：2,500）

調査は工場が稼動する中で進めたため、駐車場と工場建設予定地に分けて実施した。はじめは駐車場予定地に座標軸に合わせたトレンチを設定し、重機で巾1m（バケット巾）のトレンチを掘削し、引き続き人力でトレンチ内の精査を行い、遺物と遺構の検出につとめ、縄文時代中期の土器破片を僅かに発見したが、ロームに耕作の畝がみられ保存状態はよくない。

調査後に行われた、駐車場の工事では黒色土を取り除き、同時に宅地（第6次調査地区）の取り付け道路の改修も行われ、工事に立ち会うが遺構の発見はない。

工場建設予定地は駐車場として使用していたこともあり、駐車場建設後に実施したが、稼動する工場への進入路の関係で、進入路に合わせたトレンチを設定し、重機で巾1mのトレンチを掘削、人力でトレンチ内の精査を行うが、ロームまで掘り込まれた穴や重機バケットの爪痕が残る溝状の掘り込みがあり保存状態は悪く、横刃形石器1点を発見しただけで遺構を検出するまでに至らず調査は終了した。なお、座標値をもたせた基準杭の設置は、入原測量有限会社に委託した。調査面積は54.8m<sup>2</sup>である。

調査は、ローム層直上までとしたが、駐車場予定地はローム層に耕作の畝がみられ、層序は安定していない。工場建設予定地もやはりローム層に達する攪乱がありやはり層序は安定していなかった。基本的に、上層から黒褐色土層（耕作土）、褐色土層、ローム漸移層、ローム層である。大まかな観察結果は次の通りである。



第4図 出土土器拓影・石器実測図（1：2）

- 第Ⅰ層 黒褐色土層 15～25cm。畑の耕作土でローム塊を含むが、耕作の畝がローム層に達しているためであろう。
- 第Ⅱ層 黄褐色土層 いわゆるソフトローム層で第Ⅲ層へ漸移する。
- 第Ⅲ層 ローム層。

### Ⅲ 遺 物

縄文時代中期の土器と石器がある。

土器は破片ばかり6点である。第4図1～3の3点を図示したが、小破片ばかりで明確な時期を示すことはできないが中期中葉である。

石器は剥片を含めて5点である。4はスレート製の横刃形石器、5はスレート製の打製石斧で、基部を欠損する。図示できなかった黒曜石製の石鏃の脚部破片、黒曜石と結晶片岩の剥片がある。

### Ⅳ ま と め

本調査地点は、平成5年度に記録保存を図り工場建設が行われた隣接地で、第7次発掘調査では縄文時代中期の小竪穴2基を発見していることもあり、遺構の発見を期待したが僅かな土器破片と石器を発見しただけであるが、遺跡外縁部のありかたの一端を知ることができたと思っている。

前述のとおり宅地化が進行しており、今後も開発は予想されることで、それに係る保護も続くことになるが、注意深く見守って行く必要があるだろう。

最後に、関係者各位ならびに調査にたずさわった方々に厚くお礼申し上げる次第である。

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	がっとうざわいせき							
書名	雁頭沢遺跡（第11次発掘調査）							
副書名	平成15年度工場および駐車場建設に先立つ緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	原村の埋蔵文化財							
シリーズ番号	67							
編著者名	原村教育委員会							
編集機関	原村教育委員会							
所在地	〒391-0192 長野県諏訪郡原村6549番地1 TEL 0266-79-7930							
発行年月日	西暦 2004年03月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
がっとうざわ 雁頭沢	ながのけんすわぐん 長野県諏訪郡 はらむらむらうち 原村室内	3637	53	35度 57分 35秒	138度 12分 37秒	20031104 ～ 20031210	54.8	平成15年度 工場および 駐車場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
雁頭遺跡	包蔵地	縄文時代		縄文時代 中期土器破片、石器				

## 雁頭沢遺跡の発掘調査報告書等

1985. 7 原村役場『原村誌 上巻』
1989. 3 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財16 雁頭沢遺跡（第3次）住宅団地造成に伴う緊急発掘調査概報』
1993. 3 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財21 雁頭沢（第4次）・下原山茂佐久保（第3次）住宅団地造成に伴う緊急発掘調査概報』
1994. 3 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財23 雁頭沢遺跡（第5次）住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書』
1994. 3 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財24 雁頭沢遺跡（第6次・第7次）住宅建設及び工場建設に伴う緊急発掘調査報告書』
1998. 3 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財47 雁頭沢遺跡（第8次発掘調査）平成9年度県営圃場整備事業原村西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書』
2002. 3 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財61 居沢尾根遺跡（第8次）雁頭沢遺跡（第10次）久保地尾根遺跡（第8次）平成13年度中部電力東日本鉄道信濃境分岐線（No4～No10）間電線高上げ工事鉄塔建設に先立つ居沢尾根遺跡緊急発掘調査・建売住宅建設に先立つ雁頭沢遺跡緊急発掘調査・宅地造成に先立つ久保地尾根遺跡緊急発掘調査報告書』

原村の埋蔵文化財67

**雁頭沢遺跡**（第11次）

平成15年度工場および駐車場建設に先立つ緊急発掘調査報告書

発行日 平成16年3月  
発行 原村教育委員会  
長野県諏訪郡原村  
印刷 信毎書籍印刷

